



8.1 環境美化活動

(1) キャンパスクリーン作戦

キャンパスクリーン作戦は、教職員・学生から参加者を募り、教育環境の維持・保全、環境保全意識の向上、地域コミュニケーションの促進を目的として、各地区の除草・ゴミ拾い・池の清掃・放置自転車の整理等を行っています(図8-1)。



図8-1 常盤キャンパスの池清掃

(2) 植栽の維持管理活動

人事課業務支援室は、20名で構成され、吉田キャンパスの清掃、花壇管理、学内連携業務など多様な場面で活躍しています(図8-2)。

施設整備課環境整備班では、吉田キャンパスの環境美化を推進するため、植木剪定、芝生管理、植え込みや駐車場の除草、植物の病害虫駆除など、業務支援室と連携して植栽の維持管理を行います。

本学のイメージカラーである「緑」のある大学環境の維持に心がけ、地域や学生・教職員のために清々しい汗を流しています。



図8-2 正門付近花壇への散水

(3) 附属学校の活動(PTAによる美化活動)

附属幼稚園

本園では、PTA活動で年に2回、花の植え替えを行います(図8-3)。また、ボランティアによる落ち葉掃きやお父さんによる草刈りとペンキ塗り、全保護者による2学期初めの除草作業や研究会前の大掃除などの活動も行っています。このような活動により、自然豊かな園内の環境が美しく保たれています。

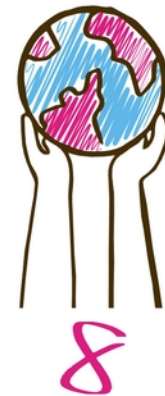
花の植え替えが始まると、保護者の姿に気がついた子どもたちが集まって来て、保護者と一緒にプランターを砂場用の台車に乗せて運んだり、プランターの花に水やりをしたりする姿が見られました。また、活動中の保護者の姿を「あそこにいるの、お母さんだ。」と自慢げに見つめていたり、活動後に「ありがとう。」と声をかけたりする姿もありました。美化活動の後には、子どもたちも遊びの中で保護者と同じように花に興味をもち大切に接したり、落ち葉を集めて遊びに使ったりする姿が見られました。

このように、保護者の姿を通して、子どもたちも環境美化を身近に感じるようになって考えています。



図8-3 保護者による花の植え替え





8.2 地域連携に関する取組

■公開講座による取組

地域未来創生センターでは、山口大学の教育、研究活動の成果を広く開放し、地域社会における生涯学習の一端を担うとともに、山口大学に蓄積された教育・研究に基づく「知」を地域に還元するため、「公開講座」・「開放授業」及び「出前講義」の3本柱からなる生涯学習事業を行っています。

山口大学の専門教育の内容を高等学校・中学校等に出向いてわかりやすく講義をする「出前講義」において、2022年度は新しいモデルとして、防府高等学校のSDGs（持続的開発目標）をテーマとした総合的な探究の時間に、本学の16名の教職員と大学院生が出向き、研究テーマに関連した講義と、所属する学部・研究科・コースなどについて大学の紹介をしました（図8-4）。

生徒たちは、授業の中でSDGsの17のゴールのいずれかをテーマとし、グループに分かれて探究活動をしており、各グループの選んだSDGsのテーマに関連する講義を選択し、受講しました。

その際、質疑・応答も行われ、本学教員は、生徒一人一人がSDGsを身近な問題として捉えられるよう、環境保全に対する様々な研究アプローチの紹介や課題解決にむけたアドバイスをし、後日同校にて行われた成果発表会へも招待され、この度の出前講義などを踏まえて選出されたグループの発表を聴講しました（図8-5）。

この度試行した出前講義では、高校生の高度な学習意欲や大学への興味、関心を喚起するだけに留まらず、教育・研究機関である山口大学の環境問題への取り組みを知ってもらうよい機会となりました。



図8-4 出前講義を行う西山教授



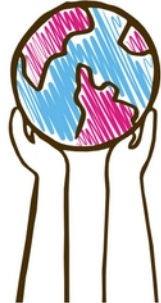
図8-5 発表会で講評する富本教授

本学地域未来創生センター



<https://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/>





SDG
13 (気候変動)



地域との協調・コミュニケーション

8.3 SDGs 目標 13 とウォーカブルシティ(Walkable City)

大学院創成科学研究科 工学系学域 感性デザイン分野 准教授 宋 俊煥

SDG 13 では、「気候変動に具体的な対策を」を掲げ、気候変動がもたらす危険や自然災害に強く、災害からの回復力を高めることと共に、気候変動の原因となる温室効果ガス排出削減のための制度や政策を整え、人々の教育に取り組むことが求められています。

世界では、20 世紀に自動車の大衆化が始まり自動車の増加に対応する都市計画理念と手法が登場しました。21 世紀には、CO₂ 削減に向けた新都市計画理念として、一定の生活圏内で車による移動ではなく歩いて暮らせる都市づくり、いわば「ウォーカブルシティ」への取り組みが必須条件となっています(図 8-6)。

国内でも、国土交通省にて「WEDO」とスローガンを掲げ、歩きたくなる(Walkable)、まちに開かれた 1 階(Eye level)、多様な人の多様な用途や使い方(Diversity)、開かれた空間が心地よい(Open)まちを推進しています。

本研究室では、宇部市新庁舎や旧井筒屋跡地が位置しているメインストリート・常盤通りにおいて、路上駐車帯がある緩速車路の一部を公園化し、集客イベントや新ビジネス活動等の様々な活用ができる場づくりをすることで、地域全体の活気と経済効果を高めることを目的に、本整備(2026 年完成予定)の前段階として使い方を検討する社会実験を 2 年間行いました(2021-2022 年)。また、竹原市では、商店街通り(あいふる通り)を公園化するために 3 年間社会実験(Park(ing)Day 等)を実施、広島市の中心市街地では、相生通りのトランジットパーク化(路面電車やバス等の公共交通のみ走行し、それ以外の空間は歩道や広場・公園化)に向けて 3 年間社会実験(カミハチキテル)と民間企業による地域連携プラットフォームづくりなど様々な活動を続けています。これらの取り組みは、にぎわい創出・地域活性化、人流増加による経済効果等を主な目的としますが、長期的な CO₂ 削減にも繋がるものです(図 8-7・8)。

人口減少が続いている日本においては、中心市街地の空き家・空き店舗の増加、行政の財政難による老朽化インフラの維持管理等が至急な課題とも思われますが、その一方で、欧米を中心に世界的に取り組んでいる「ウォーカブルシティ」の本来の目的・意義である都市の環境負荷を低減させるための「歩いて生活できる都市づくり」という視点も今後重要視しながら、気候変動に対応する「日本版ウォーカブルシティ」にアップデートしていくことを期待します。

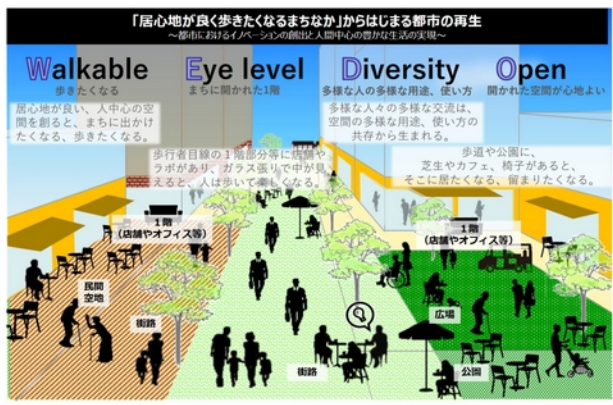


図 8-6 ウォーカブルなまちづくり概念 (出典：国土省)



図 8-7 宇部市常盤通り



図 8-8 広島市相生通り





SDG
4(教育)



8.4 学生と経営者がツナガル！交流会の開催（ご講演頂いた経営者の皆様へ）

教育学部 家政教育選修 屋敷田 唯梨

「学生と経営者がツナガル！交流会」に参加した理由は、私は教員志望のため、企業と関わることがほとんどなく、**社会の中で企業がSDGsにどう取り組んでいるのかを知る良い機会になると考えたから**です。

講演とグループワークを通じて、私は二つのことを学びました。一つは、**企業は利益を上げながら環境にも配慮した取り組みを行っていること**です。例えば、クリーンディーゼル車の推進や動物の飼料を自社で作るなど、**労力や出費がかさむ取り組み**をしていることに驚きました。自社だけの利益を考えるのではなく、**地球環境を守りつつ、社員を大切にする企業**は今後も様々なところで評価されると思います。

もう一つは、**このような交流会を将来、教育者の立場として学校現場で行う必要性がある**ということです。実際にSDGsに関わっている方のお話は児童・生徒の心に深く伝わる**ことが期待されると同時に、キャリア教育の一環として児童・生徒の企業理解にも繋がります**。



地域人材育成事業 URL

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yu-chiiki/posts/news29.html>

今回の交流会が私にとって**良い教材研究の場となり、さらに、環境について考える良い機会になりました**。経営者の皆様におかれましては、**山大学生のために企業の貴重な経験やお時間をご提供頂きどうも有難うございました**（図 8-9・10）。



図 8-9 募集リーフレット



図 8-10 意見交換の様子

8.5 熱帯地域における社会性昆虫の役割に関する研究活動

大学院創成科学研究科 農学系専攻 生命科学コース 梶原 由貴

SSSV (Short Stay Short Visit) は、**農学部と連携大学間で短期の交換留学を行い、派遣先大学の研究室に於いて学生同士が協力し合って掲げた目標を達成する**というプログラムです。当該活動では、タイ・カセサート大学農学部で、**熱帯地域の社会性昆虫種であるシロアリやミツバチの社会性の構造そして環境における役割について、所属の大学院生とともに実践研究を行いました**。

まず、シロアリ目の分類方法について、その頭部、胸部、腹部、触覚に種独自の特徴を持つ兵隊アリカーストを顕微鏡で観察し、**分類学を学びました**。さらに熱帯地域のため自然に恵まれているタイで、**蜂蜜に加えてプロポリスやポーリン（花粉）などの栄養価の高い成分の採取を経験しました**（図 8-11・12）。**現地ではミツバチの生態を実際に目や耳で知ることができ、また、シロアリの分解者としての役割とともに熱帯環境におけるこれら社会性昆虫の人間との関わりについても理解が深まりました**。



図 8-11 採蜜の様子



図 8-12 採取した蜜蝋

SDG

- 1 (貧困)
- 2 (飢餓)
- 9 (イノベーション)
- 15 (森林保全)

